

# 環境経営レポート

## 環境基本理念

私たちは、事業活動が与える環境負荷をしっかりと認識し、環境負荷の削減などの環境保全活動を行うことは、重要な社会的責任であり、事業活動の重要課題と位置づけて、全社員一丸となって持続可能な社会の構築に努力します。

第13版作成 2024年11月15日

対象期間 2023年10月～2024年9月

大平開発株式会社

《 目 次 》	1
1. 事業概要	2
1) 事業者名及び代表者	2
2) 所在地	2
3) 環境管理責任者	2
4) 連絡先	2
5) 対象範囲	2
6) 事業規模	2
7) 推進組織図	2
2. 環境経営方針	3
3. 環境経営目標	4
4. 環境経営目標の実績	4
5. 環境経営計画の取組結果とその評価	5
6. 次年度の目標と取組内容	6
7. 年度別環境経営目標	7
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	8
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	8
10. エネルギー消費量と二酸化炭素排出量の推移	9
11. 産業廃棄物再資源化率の推移	9
12. その他の取組	10

## 1. 事業概要

### 1) 事業者名及び代表者名

大平開発株式会社  
代表取締役 津曲 道孝

### 2) 所在地

・本社 〒889-3532 宮崎県 串間市大字大平3291番地  
・倉庫 〒889-3532 宮崎県 串間市大字大平

### 3) 環境管理責任者

EA-21責任者 : 津曲 律子

### 4) 連絡先

連絡担当者 : 村富 伸江 (EA21事務局)  
TEL : 0987-74-1380  
FAX : 0987-74-2210  
E-mail: oohiracc@gold.ocn.ne.jp

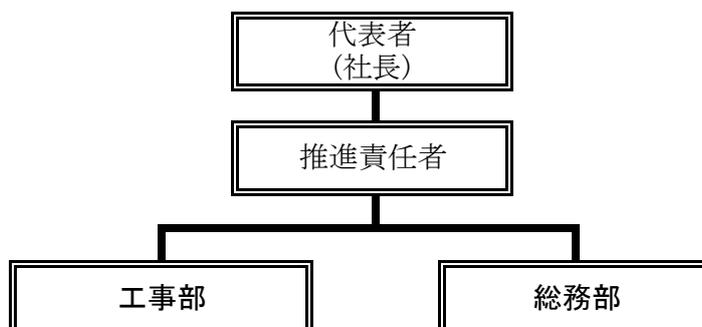
### 5) 対象範囲・・(全社・全活動)

- ・対象組織 ..... 全社(関連事業所なし)
- ・対象活動 ..... 全活動  
建設業(土木工事、とび・土工工事、舗装工事、管工事、水道施設工事、解体工事)

### 6) 事業規模

項目	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
従業員数	10	11	10	11	13
工事等の件数	10	13	10	15	10
事業所床面積(m <sup>2</sup> )	52	52	52	52	52
倉庫床面積(m <sup>2</sup> )	200	200	200	200	200
資機材置場面積(m <sup>2</sup> )	800	800	800	800	800

### 7) 推進組織図



## 2. 環境経営方針

### 環境経営方針

#### 基本理念

私たちは、事業活動が与える環境負荷をしっかりと認識し、環境負荷の削減などの環境保全活動を行うことは、重要な社会的責任であり、事業活動の重要課題と位置づけて、全社員一丸となって持続可能な社会の構築に努力します。

#### 基本方針

1. 環境経営に積極的に取組むため、環境マネジメントシステムを構築して、継続的な改善に努めます。
2. 事業活動に関連する法令・条例等を誠実に守ります。
3. 事業活動で発生する環境負荷を低減する為、次の事項に優先的に取組みます。
  - ①. 省エネ活動による二酸化炭素排出量の削減
  - ②. 廃棄物の削減と分別徹底による再資源化の推進
  - ③. 水資源の使用量削減
4. 環境に配慮した施工を推進し、環境保全に努めます。
5. 創意工夫やICT活用等で、安全且つ効率的施工に努めます。
6. 地域の環境保全活動に積極的に参加します。

以上を全従業員で積極的に取り組みます。

改訂；平成30年10月5日

改訂；令和3年10月8日

改訂；令和6年10月7日

大平開発株式会社

代表取締役 津曲 道孝

### 3. 環境経営目標

取組み項目 (目標項目)(単位)	実施区	年度別環境目標				
		基準値 (2019年10月～ 2022年9月)	2023年度 (2023年10月～ 2024年9月)	2024年度 (2024年10月～ 2025年9月)	2025年度 (2025年10月～ 2026年9月)	
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO <sub>2</sub> )	全社	135,344	133,989	132,635	131,281	
エネルギー	①電力使用量の削減 (kWh)	事務所	5,240	5,187	5,135	5,082
	②ガソリン使用量の削減 (L)	全社	9,936	9,836	9,737	9,637
	③軽油使用量の削減 (L)	現場	42,552	42,126	41,700	41,275
2 廃棄物	①一般廃棄物の削減 (kg)	全社	170.0	168.3	166.6	164.9
	②建設副産物の再資源化率向上	現場	95%	再資源化率95%以上		
3. 水資源使用量の削減 (m <sup>3</sup> )	事務所	42	節水活動及び 使用量の検証	42m <sup>3</sup> 以内		
活環境 4	①環境配慮型施工の推進	全社	—	環境経営計画の遵守を目標とする		

- \* 建設副産物の再資源化率は (再資源化量÷総排出量)×100
- \* 水資源は、井戸水を使用しているため、計量していませんが、節水の意識を全員が持ち、節水することを目標としています。
- \* 環境配慮型施工の推進は、環境配慮型重機を使用するなど『環境経営計画の遵守』を目標としています。
- \* 2019年10月から2022年9月までの実績平均値を新基準値として、第六次経営目標を設定しました。
- \* 水資源について、市水になった為2024年2月から2024年9月までの全体使用量平均値の5%を新基準値として、2024年度分から新たに環境経営目標を設定しました。

### 4.環境経営目標の実績

\* 2023年10月から2024年9月までの1年間の実績は以下の通りです。

取組み項目	実施区	目標値	実績	達成率	評価	
二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> )	全社	133,989	129,255	103.7%	○	
省エネ	①電力使用量の削減 (kWh)	事務所	5,187	6,050	85.7%	×
	②ガソリン使用量の削減 (L)	全社	9,836	8,916	110.3%	○
	③軽油使用量の削減 (L)	現場	42,126	40,958	102.9%	○
2の削減物	①. 一般廃棄物の削減 (kg)	全社	168.3	166.6	101.0%	○
	②. 建設副産物の再資源化率向上(%)	現場	95%以上	99.7% (216.46t/217.11t)	104.9%	○
3. 水資源使用量の削減 (m <sup>3</sup> )	全社	節水活動及び 使用量の検証	節水活動及び 削減目標設定	—	○	
活環境 4	②環境配慮型の施工推進	全社	環境経営計画の遵守	環境経営計画を遵守しています	—	○

- \* 2019年10月から2022年9月までの実績平均値をもとに目標値としています。
- \* 購入電力の二酸化炭素排出係数は、令和5年1月環境省・経済産業省公表の九州電力(株)調整後係数0.479を使用しました。
- \* 化石燃料の二酸化炭素排出係数は、ガイドライン2017年版と整合しました。
- \* 化学物質 (PRTR制度対象物質)の使用はありません。
- \* 2023年度のLPGガスを含む二酸化炭素総排出量は 129,258 kg-CO<sub>2</sub>です。
- \* 2024年1月から事務所にLPGガスを設置。使用量は極少量の為、把握するのみですが全体のkg-CO<sub>2</sub>にも反映される事から、環境への負荷の状況(取りまとめ表)と若干の差が出ます。
- \* 水資源について、市水になった為、節水活動と使用量の検証に努めました。

## 5.環境経営計画の取組結果とその評価

取組項目	環境経営計画の内容	取組状況	評価
・電気使用量の削減	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底	事務所修繕に伴い、年末から4月末まで仮設事務所と二重の電力使用になった。更に過去最高の酷暑であった為、目標達成率としては、85.7%であった。	○
	②空調の適温化〔冷房28℃程度、暖房22℃程度〕を徹底(クールビズ・ウォームビズを推奨する)		○
	③室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避けて節電を図る		○
	④冷蔵庫は、詰込みすぎに注意する、温水洗浄便座の適宜使用等、節電を徹底する		○
・化石燃料使用量の削減 1.ガソリン 2.軽油 3.灯油	①エコドライブ(アイドリングストップ、急発進・急加速及び空ぶかしの防止等)を徹底、法定速度の厳守	土砂運搬工事等で、軽油使用量の大幅未達の月もあったが、全体達成率としては、ガソリン110.3%、軽油102.9%となり、評価できる結果であった。従業員の相乗りやエコドライブなどの努力が成果となっている。	○
	②重機は始業前点検を実施する		○
	③建設機械等の作業は、過剰な負荷を掛けないように操作する(アクセル7割運動等)		○
	④段取り良い前準備で忘れ物などをなくす、移動ルートの効率化、現場への相乗りを周知する		○
	⑤工期短縮の創意工夫を図る		○
・一般廃棄物の削減	①コピーは裏紙使用や両面・縮小コピーに努めるとともに、印刷前の文章チェック及びプレビュー機能利用を徹底周知する	社内での写真や文章等の確認作業は、共有フォルダで行うことを周知し、可能な限りペーパーレスに努めることが出来た。	○
	②資源物を再生利用できるように分別する		○
	③コピートナー容器などは業者に回収してもらい、使用後のテプラはまとめて回収BOXへ郵送、プリンターのインクはリサイクルBOXへ持って行く		○
	④社内では共有フォルダを使用、提出物は電子納品を優先する等、ペーパーレスに努める		○
・建設副産物の再資源化率の向上	①建設資材発注時は使用数量を再チェックし、残余資材の発生を抑制する	建設資材は余らない様に使用数量を二重チェックして発注した。産業廃棄物再資源率としては、99.7%で目標達成している。	○
	②建設残余資材が発生したら、分別して再利用を行う		○
	③廃棄物の処理はできるだけリサイクル業者へ依頼して再資源化を推進する		○
・水資源使用量の削減	①現場で使用する水は極力雨水や河川水を利用する	市水になり、メーターが社長宅と兼用している為、今期の使用量を検証した。事務所使用は極微量の為、全体使用量平均値の5%を新基準値とし、次年度から実行する。	○
	②車両や建設機械の洗車は必要最小限にとどめ、できるだけ雨水を利用する		○
・環境配慮型施工の推進	①環境配慮型の建設機械を使用する	環境配慮型の重機及び材料を使用すると共に、最新の気象情報を充分考慮し、工程管理に最大限生かす事が出来た。	○
	②可能な限り、環境配慮型材料等を利用した施工の実施		○
	③しっかりした工程管理で常に工期短縮に取り組む		○

## 6.次年度の環境経営目標と環境経営計画

取組項目	年間目標	環境経営計画内容
・電気使用量の削減	5,135kWh (基準年比98%)	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底 ②空調の適温化〔冷房27℃程度、暖房22度程度〕を徹底 (クールビズ・ウォームビズを推奨する) ③室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を 避けて節電を図る ④冷蔵庫は、詰込みすぎに注意する、温水洗浄便座の適宜 使用する等、節電を徹底する
・化石燃料使用量の 削減  1.ガソリン 2.軽油	ガソリン9,737 L (基準年比98%)  軽油 41,700 L (基準年比98%)	①エコドライブ(アイドリングストップ、急発進・急加速及び 空ぶかしの防止等)の徹底、法定速度の厳守 ②重機は始業前点検を実施する ③建設機械等の作業は、過剰な負荷を掛けないように 操作する (アクセル7割運動等) ④段取り良い前準備で忘れ物などをなくす、移動ルートの 効率化、現場への相乗りを周知する ⑤工期短縮の創意工夫を図る
・一般廃棄物の削減	166.6kg (基準年比98%)	①コピーは裏紙使用や両面・縮小コピーに努めると共に、印 刷前の文章チェック及びプレビュー機能利用を徹底周知する ②資源物を再生利用できるように分別する ③コピートナー容器は業者に回収してもらい、使用後のテプ ラはまとめて回収BOXへ郵送、プリンターのインクはリサイクル BOXへ持って行く ④社内では共有フォルダを使用、提出物は電子納品を優先 にする等、ペーパーレスに努める
・建設副産物の 再資源化率の向上	95%以上	①建設資材発注時は使用数量を再チェックし、残余資材の 発生を抑制する ②建設残余資材が発生したら、分別して再利用を行う ③廃棄物の処理はできるだけリサイクル業者へ依頼して 再資源化を推進する
・水資源使用量の削減	42m <sup>3</sup> 以内	①現場で使用する水は極力雨水や河川水を利用する ②車両や建設機械の洗車は必要最小限にとどめ、 できるだけ雨水を利用する ③水の流しっぱなしをせず、水量は適正にする
・環境配慮型施工の 推進	当該環境経営 計画の遵守	①環境配慮型の建設機械を使用する ②可能な限り、環境配慮型材料等を利用した施工をする ③しっかりした工程管理で常に工期短縮に取り組む

7. 年度別環境経営目標

**環境経営目標(第六次)**

作成日;2023年 6月30日 承認;津曲

年度別環境経営目標

取組み項目 (目標項目)(単位)	実施区	基準値	2023年度	2024年度	2025年度	
		(2019年10月～ 2022年9月)平均	(2023年10月～ 2024年9月)	(2024年10月～ 2025年9月)	(2025年10月～ 2026年9月)	
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO <sub>2</sub> )	全社	135,344	133,989	132,635	131,281	
省エネ ルギ ー 項 目	①電力使用量の削減 (kWh)		基準値比1.0%削減	基準値比2.0%削減	基準値比3.0%削減	
		事務所	5,240	5,187	5,135	5,082
	②ガソリン使用量の削減 (L)		基準値比1.0%削減	基準値比2.0%削減	基準値比3.0%削減	
		全社	9,936	9,836	9,737	9,637
	③軽油使用量の削減 (L)		基準値比1.0%削減	基準値比2.0%削減	基準値比3.0%削減	
		現場	42,552	42,126	41,700	41,275
物2 の 削 廃 減 棄	①一般廃棄物の削減 (kg)		基準値比1.0%削減	基準値比2.0%削減	基準値比3.0%削減	
			170.0	168.3	166.6	164.9
	②建設副産物の 再資源化率向上(%)	現場	95%	再資源化率95%以上		
3. 水資源使用量の削減 (m <sup>3</sup> )	事務所	42	節水活動及び 使用量の検証	42m <sup>3</sup> 以内		
環4 境 活 益 動 な	①グリーン購入の促進	全社				
	②環境配慮型施工の 推進	全社	—	環境経営計画の遵守を目標とする		

\* 再資源化率=(再利用+再生利用+熱回収)÷総排出量×100

\* 水資源は、井戸水を使用しているため、計量していませんが、節水の意識を全員が持ち、節水することを目標としています。

\* グリーン製品購入率=(エコ製品購入数÷総商品購入量)×100

\* 環境配慮型施工の推進は、環境配慮型重機を使用するなど『環境経営計画の遵守』を目標としています。

\* 2019年10月から2022年9月までの実績平均値を基準値として第六次経営目標を設定しました。

\* 化学物質(PRTR制度対象物質)の使用はありません。

【改訂履歴】

2018年10月 5日・・・基準値を2014年10月から2017年9月までの実績平均値とした

2018年10月 5日・・・購入電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の調整後排出係数0.463を使用しています。

2019年 9月 1日・・・化石燃料の二酸化炭素排出係数は、ガドライン2017年版と整合しました。

2019年 9月 1日・・・グリーン購入の促進は管理項目から除外しました。

2020年10月 1日・・・基準値を2016年10月から2019年9月までの実績平均値としました。

2020年12月24日・・・ガソリンの使用量を全社としました。

2023年 6月30日・・・基準値を2019年10月から2022年9月までの実績平均値としました。

2023年 6月30日・・・購入電力の二酸化炭素排出係数は、R5.1.24 環境省・経済産業省公表の九州電力(株)調整後係数0.479kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用しました

2024年10月 7日・・・市水になった為、使用量を検証し2024年度からの削減目標を42m<sup>3</sup>以内としました。

	単位	CO2排出係数
電気	kg-CO <sub>2</sub> /kWh	0.479
ガソリン	kg-CO <sub>2</sub> /L	2.32
軽油	kg-CO <sub>2</sub> /L	2.58

## 8.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無

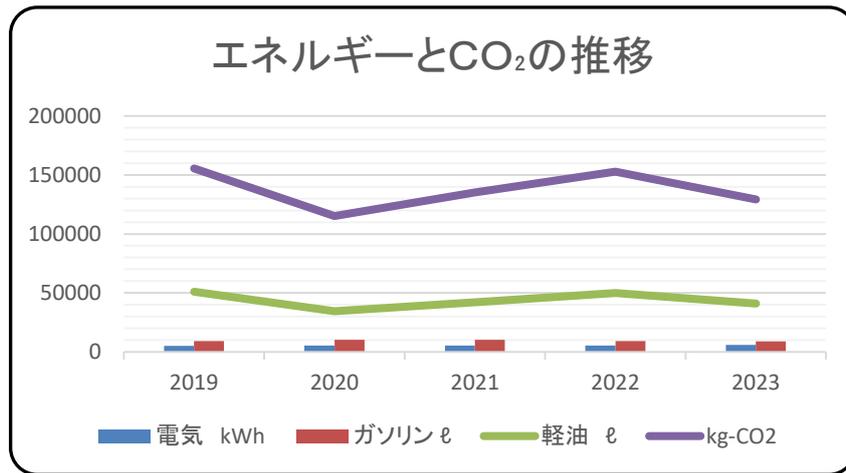
\* 当社の事業に係る環境関連法規は、担当者が定期的に改訂の有無を確認しています。  
尚、関連法規の遵守状況確認を実施した結果、違反、訴訟はありませんでした。  
また、関係当局からの指摘及び地域住民からの訴訟もありませんでした。  
現場での遵守状況は、安全パトロールや安全会議時などで確認しています。

法規名	該当する要求事項	評価
廃棄物処理法	委託契約の締結	順守
	マニフェストの交付、保管義務	順守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書	順守
	多量排出事業者 計画書、実施書	該当なし
	保管場所の掲示	順守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	順守
	必要事項を都道府県知事に届け出	順守
	分別解体、再資源化促進、再資源使用	順守
大気汚染防止法	計画書の提出	該当なし
	解体工事時の措置	該当なし
フロン排出抑制法	簡易点検の実施	順守
浄化槽法	法定検査の実施、記録の保管	順守

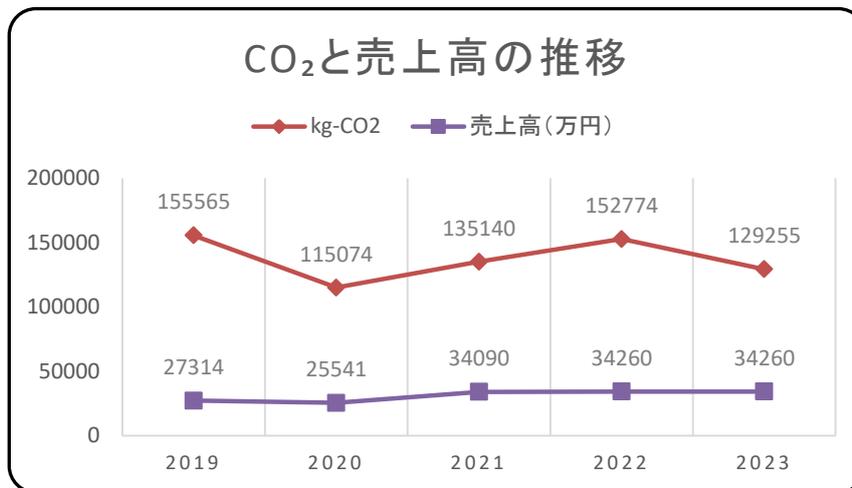
## 9.代表者による全体評価と見直しの結果

国連事務総長の表明によると「地球温暖化時代は終わり、地球沸騰化時代に突入した」という。  
世界の平均気温は年々上昇し、季節を問わず台風や大雨に伴う洪水等、深刻な事態となっている。  
組織としても勿論だが、一人一人が今まで以上に意識を高く持ち、行動する事が大切だと考える。  
エコアクション21環境活動については、既に定着している従業員が新入社員に伝え、  
取り組むようになった。しかしながら、電力使用量においては、ほぼ未達という結果になってしまった。  
要因として、事務所修繕に伴い仮設事務所との二重電力使用になった事や、前年以上の酷暑により、  
エアコンを朝から稼働していた事、ウォーターサーバーを設置した事、等が挙げられる。  
どれも従業員にとってより良い環境にする為であり、省エネ対策はしているので納得している。  
次年度からは、水資源についても削減目標を掲げているので、社員一丸となってしっかり取り組むとともに  
働きやすい職場、かつ環境に優しい会社であるよう目指す。

## 10. エネルギー消費量とCO2排出量の推移グラフ

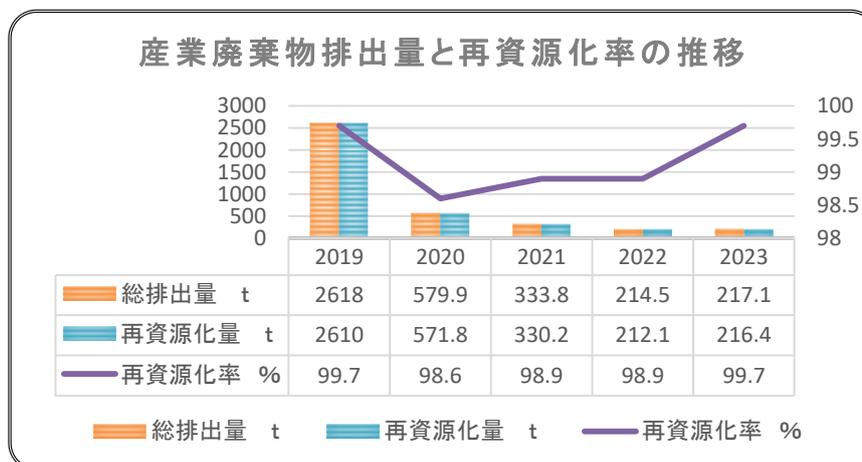


★ 二酸化炭素排出量は軽油の消費量と比例しています



★ 二酸化炭素排出量と売上高はほぼ比例しています

## 11. 産業廃棄物排出量と再資源化率の推移グラフ

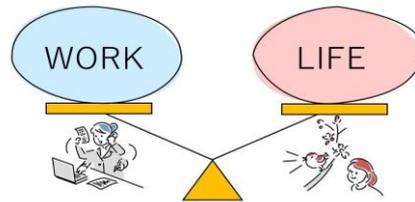
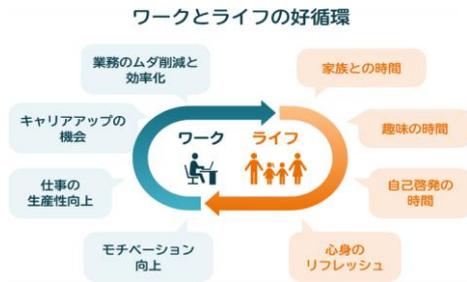


★ 総排出量に関わらず再資源化率は安定しています

## 12.その他の取組

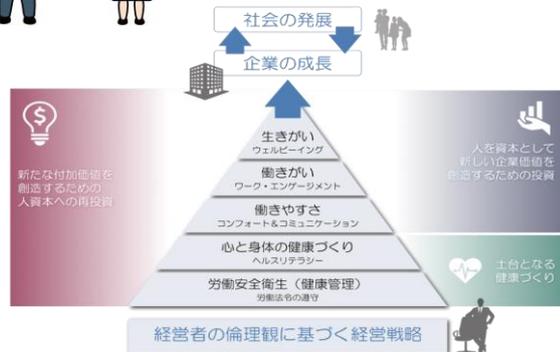
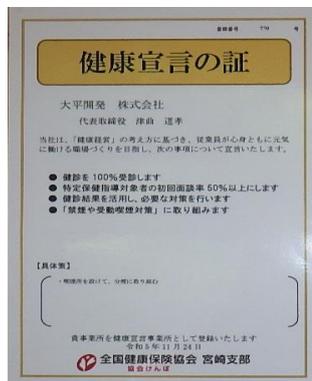
### ◀ 次世代育成支援 ▶

- ① くるみん認定取得
- ② 看護に係る休暇及び時間給の取得推奨



### ◀ 健康経営 ▶

- ① 健康診断100%受診
- ② 受動喫煙対策の取組



### ◀ 介護支援 ▶

- ① 介護に係る休暇及び時間給の取得推奨

